

自然を扱った図書には書名に自然誌、あるいは自然史のこぼを含む図書が数多くありますが、自然誌と自然史とはどのような違いがあるのでしょうか。

一般には〇〇の自然史と銘打った図書があれば〇〇に関する時間的推移について、いわば歴史的記述がなされているものであり、〇〇の自然誌とあれば〇〇について時間的推移にとらわれずに記述されたものだと考えるのが普通の受け取り方だと思います。実際に刊行されている図書を見ても概ね上記の区分で使い分けされているようです。出版点数では自然誌を使ったものがいくらか多いくらいでそれほど差はないように思われます。

ところで、この自然誌、自然史ということばはいつ頃から使われ始めるようになったのでしょうか。これらのことばはNatural Historyの訳語として使われ始めたのですが、当初は博物誌、博物学と訳されていました。Natural Historyの語源は古代ローマ時代に大プリニウス(Gaius Plinius Secundus)が著した全37巻からなる『Naturalis Historia』に由来するといわれています。世上有名なプリニウスの『博物誌』のことです。この時、Natural Historyを『自然誌』とせずに『博物誌』としたのは中国の『博物志』からの影響だと言われています。(世界大百科事典 平凡社)

そもそも、誌・史の相違はNatural HistoryのHistoryの語の解釈の相違に起因しているといわれています。Historyのもとになったのはラテン語のHistoriaなのですが、歴史としての意味のほかに研究・認識すること、記述することの意味があり、語義としては後者の方が原義に近いと解釈され、訳語としては史ではなく誌が当てられたのです。実際プリニウスの『Naturalis Historia』は自然の歴史の書ではなく、彼が見聞したり、観察、研究した自然界の森羅万象を記述したものです。したがってプリニウスの『Naturalis Historia』はあくまでも『博物誌』であって、Naturalを自然と訳し『自然誌』と呼ぶことはあっても、決して『自然史』ではないということになるわけです。

一方、自然史ということばはいつ頃成立したものかよくわかりませんが、戦後ではないかという意見があります。鶴田総一郎氏によれば、たまたま戦後出た岩波の辞典で、自然史を充てたものが、いつの間にか使われるようになった旨の記述があります(自然科学と博物館 国立科学博物館 Vol.41 No.4 1974)。また、この自然史ということばは当初よほど評判が悪かったようで、駒井卓氏はNatural Historyを自然史と当てるのはHistoryの本来の意味が「物語」「叙述」であるからして明らかに不相当であると批判されています(自然科学と博物館 国立科学博物館 Vol.35 No.1-2 1968)。

Natural Historyの本来の語義からしても自然誌の方が正統性を有していると考えられるにもかかわらず、自然史が今日みられるように一般化してきたのはなぜなのでしょう。さらには、各種の国語辞典をみると自然史だけが記載されているだけで自然誌がない(岩波 広辞苑 第4版・小学館 大辞泉 第1版)か、全く両者とも記載がない(講談社 日本語大辞典 第2版)というのはどのようなことなのでしょう。

次回は、その辺りの事情も含めて自然誌・自然史問題を自然系博物館との関係の中で考えてみようと思います。(司書 内田 潔)

## 開館5周年記念・活動報告展 開かれた博物館をめざして

—生命の星・地球博物館の5年間のあゆみ—  
平成12年3月18日(土)～5月14日(日)

開かれた博物館をめざして活動を続けている当館5年間の歩みを振り返り、過去の特別展や活動記録のパネル展示をはじめ、未公開の収集標本を展示します。また、「匂いの不思議 香りの秘密～私はヘッピー虫虫」と題して、匂いを活用した体験展示コーナー(昆虫や植物、さらには白亜紀の匂い)も併設中です。

## ● From EDITOR

当博物館も開館から6年目になろうとしています。この「自然科学のとびら」も今号から第6巻(Vol.6)に入りました。「展示シリーズ」と題した連載をスタートさせました。なにげなく見ている展示物も自然科学の入口となる面白い情報が沢山詰まっています。今回は、中村一恵学芸部長にカワウを紹介していただきました。私も早速、カワウのはく製を見ました。とくに、野外では観察することが難しい足指の形ついて、カワウのはく製と、その隣に展示されているウの仲間の化石の特徴と比べて見ました。

## 催し物のご案内

### 野外観察「身近な自然発見講座」

毎月第3水曜日開催の博物館周辺での自然観察会を行います。

日時:4月29日、5月17日、6月21日(水)  
10:00～15:00

対象:一般

申込:当日受付(当館正面玄関前集合)

### 鉱博物館友の会・神奈川地学会共催

#### 室内実習「鉱物各論」[博物館]

日時:4月29日(土)、5月21日(日)・27日(土)、6月10日(土)・24日(土)、7月8日(土)・20日(木・祝)・22日(土) 全8回  
10:30～15:00

内容:石英や長石など、主な鉱物約100種について詳しく学びます。

講師:加藤昭 氏

対象:一般 70人 受講料:4,000円

申込:3月21日(火)～4月11日(火)

### 神奈川の自然を歩く(1)

#### 野外観察「地形観察会」[湯河原町]

日時:5月3日(水・祝) 10:00～15:00

内容:丘陵、河口、海岸線などの地形を観察します。

対象:一般 30人

申込:3月28日(火)～4月18日(火)

### 研究テクニク講座

#### 室内実習「スゲ属植物入門」[博物館]

日時:5月7日(日) 13:30～16:00

内容:スゲ属植物の分類の基礎を学びます。

対象:一般 20人

申込:4月4日(火)～4月25日(火)

### 研究テクニク講座

#### 室内実習「ダイバーのための魚類学入門」[博物館]

日時:5月21日(日)・28日(日)

全2回 9:00～16:00

内容:標本の観察や撮影を通して、魚についての理解を深めます。

対象:18才以上 10人

申込:4月18日(火)～5月9日(火)

## 申込方法

往復はがきに、催物名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、博物館宛てにお送りください。

ご家族など数人でご希望の場合は連名でお申し込みになれます。特に記載の無いものは参加無料です。応募多数の場合は抽選となります。